

聞名寺 もんみやうじ 〔二条川東にあり、時宗相州藤沢ふちざはに属す。大炊道場といふ。本尊阿弥陀仏は安阿弥の作、立像三尺許。光くわう

孝天皇塔寺内にあり〕

秋野道場 あきの、だうぢやう 〔寺内にあり、古へは南都にありて聖徳王しやうとくの草創なり。中頃京都二条烏丸にうつし、天台宗を改て時宗とな

る〕

法鏡山妙伝寺 はふきやうさんめうでんじ 〔同所東の端にあり。法華宗一致派。開基は日意上人、初めは叡山えいざんの学徒となり、改宗して甲州身

延山えいざんの日朝上人の弟子と成、それより祖師の骨舍利七面明神を都に勧請し、九重の身延山として当寺を建立せり。初め

の地は西洞院綾小路あやのこうぢ、今の妙伝町にあり。其後京極二条にうつり、近年又こゝにうつす〕

日蓮上人像 にちれんしやうにんのざう 〔坐像二尺、初めは上京興聖寺にあり。当寺の六世日恵上人靈夢を蒙りこゝに安置す〕

大恩寺 だいおんじ 〔同所にあり、浄土宗百万遍ひやくまんべんに属す〕

本尊阿弥陀仏 ほんぞんあみだぶつ 〔慈覚大師じかくの作、洛陽四十八願巡の第廿二番なり。開基は岌公天阿上人〕

**教安寺** けうあんじ〔同所にあり、同宗知恩院に属す〕

本尊阿弥陀仏〔同作、立像二尺五寸、四十八願めぐりの第二十番なり。開基は窓蓮社能誉上人そうれんしゃ〕

**空中山寂光寺** くうちゅうざんじやくくわうじ〔同所にあり、法華宗勝劣しやうれつ。開基久遠院日淵上人くえん へん。初は室町近衛にあり、其後京極二条にうつし、

近世又こゝにうつす〕

**信行寺** しんぎやうじ〔同所にあり、浄土宗知恩院に属す〕本尊阿弥陀仏〔定朝の作、立像三尺八寸許、方除本尊とす。四十八願

巡の第一番なり。開基願譽準公上人くわんよじゆんこう〕

**要法寺** えうはふじ〔同所南の端にあり、法華宗勝劣派。初は醒井綾小路にゆり、今要法寺町といふ。其後京極二条にうつし、

近年こゝにうつす。開基は日尊上人なり。初は天台宗にして智才に遭ふ事を祈り、初瀬はせの観音に一百夜籠り、示現じげんを蒙り日目法師に逢ふて即法義を暁し、師弟の約をなし、今宗と改む。凡一生の中建る所の梵宇三十六箇寺なり。康永四年

五月八日に化す、八十一歳〕

## 安養寺

〔京極四条坊門の南にあり、浄土宗西山派。四十八願巡の第四十六番なり〕

額がく〔安養寺あんやうと書す、後深草院ごふかくさのあんの宸筆なり〕

本尊阿弥陀ほんぞんあみだぶつ仏 〔春日の作、立像六尺三寸。此本尊の華台八葉の蓮華を倒になす。初め造立の時、台を常の如くするに

忽然として破る事三度に及ぶ、相議して倒蓮華さかれんげとなすに破る、事なし。是即女人胸中蓮華倒にあり、これを表して女人引接の相をあらはし給ふなり。本尊出現は、大和国当麻里たへまのさとに老女あり、誓願至信にして阿弥陀を造立せしむ、其時化人來つて作れり、成就の後われは是春日明神の応化なりと告終て去にけり〕

善導大師像ぜんだうだいしのざう 〔漢土もんこしよりの伝來なり、長一尺二寸許〕 法然上人像はふねんしやうにんのざう 〔觀鏡の作、坐像一尺許〕

〔当寺初は大和国にありて華台院けだいと号す。寛和年中に恵心僧都の草創なり。二世は僧都の妹安養尼あんやうにといふ、寺号こゝに起る。天永年中隆暹りうせん法師本尊の靈告によつて洛陽に遷す、旧地は樋口通の西なり。今宗の中興は証しょうぶつ上人。初めは傍に不動堂あり、今の華台壇の半より上、又壇上の組天井は初め不動堂にありしなり。是畠山重忠はたけやまの寄進なり。不動尊今南の壇上に安置す。当地の由縁は後深草院の天聰に達して勅額を賜ふ〕

## 了蓮寺

〔京極通錦小路の北にあり、浄土宗百万遍に属す。四十八願巡の第四十五番なり。今宗の祖乘じょうよ誉月心上人な

り〕

本尊阿弥陀仏ほんぞんあみだぶつ 〔坐像四尺五寸。○左如意輪観音、坐像一尺八寸。○右地藏尊、坐像一尺七寸。共に恵心僧都ゑしんしんの作〕

〔当寺本尊面貌相好僧都めんぼうさうがう一代制作の内最勝なり、後光華台比類なし。壇上の後の板面に二十五菩薩を画く、是も亦僧都の筆なり。又内陣壁板に浄土九品の相を画く、今消残つて所くに存せり。内陣の四辺天井等みな僧都の営作なり〕

地藏堂ちざうだう 〔寺内にあり、定朝の作、坐像三尺。靈験奇異にして古今新なり〕

鬼女舍利きぢよしやり 〔当寺本尊初め東山雲居寺とうんこじにありし時、近辺の醜女本尊しうぢよを拜するに曾て見る事なし。それより業障の深きを悲しみ、至信怠る事なし。ある時示現あつて、本尊見給ひ仏舍利を授給ふ、忽悪相変じて信楽昌んに相続し、八十歳に

至つて往生す。末期舍利を雲居寺に蔵む、本尊当寺にうつす時舍利も亦こゝに伝来せり〕